



さわら・水と緑とほたるの里づくり

学校、地域、行政、ボランティア団体などのさまざまな取り組みが都市景観賞として評価されたことは今後の活動の励みになります。この室見川が一人でも多くの人に愛され、親しまれていくことを願うものであります。(早良ふるさといきもの里づくり推進連絡協議会会長 橋原 吉晴さん)

主催者 早良ふるさといきもの里づくり推進連絡協議会
福岡市立早良中学校
福岡市立早良高等学校
福岡市立早良小学校
福岡市立早良小学校
福岡市立早良小学校
福岡市立早良小学校

概要 早良ふるさといきもの里づくり推進連絡協議会は、地域、ボランティア団体等と行政が協力しながら「ふるさといきもの里」として環境庁から認定された室見川上流域の水生小動物の生息できる環境の保全や地域のコミュニティづくりを推進するため、親子でのホタル学習会や水生生物観察会、広葉樹の植樹会、河川清掃等を協働で行っている。また、早良中学校校区の小・中・高校ではホタルから採卵しふ化させ、その幼虫を飼育し合同放流会を行うなど地域の環境保護に取り組んでいる。これらの活動は1984年に始められ、息長く続けられている。

(審査委員 馬場 周一郎)

【副賞】

青嶽山系に源を発する室見川。田村大橋に立つて遠く山あいを眺めると、縄文弥生の人たちがそこかしこでおしゃべりをしているような錯覚にさえとられる。それほど室見川河畔はいまなお牧歌的な雰囲気包まれている。

流域住民が一丸となった「さわら・水と緑とほたるの里づくり」は、この美しい景観があったればこそだろう。放流会、観察会……。数々の息の長い取り組みは、半端な意志で継続できるものではない。

ホタルを守り、育てるといふ活動を通して住民は自分たちの住む地域に愛情と誇りを持つようになつていった。これが、何よりの財産である。

地球環境や生態系にさまざまな悪い変化が伝えられるいま、生物への関心を高め、わがまちへの愛着を深めた一連の活動は、地域連帯のひとつの姿を示している。

【副賞】 都市景観を彩る重要なファクターは「人々」である。今回受賞したシティ情報ふくおかは、一貫して、その「場」と「人々」をつなぐ役割を果たしてきたといえる。「場」は新しい施設であったり、エンターテインメントであったり、衣食の情報であったりするのだが、この情報誌は、その「場」に生まれる刺激やコミュニケーションが、まちとそこに暮らす人々を活性化させるとの信念をしっかりと持っているように思う。

64ページでスタートしたというこの情報誌もいまや70ページ。発刊当時から表紙を飾ってきたちよっと小太りの「ふくおかおじさん」は、今日も私たちと一緒に元気にまちを闊歩している。

(審査委員 今村 洋子)



シティ情報ふくおか

500号を迎えた年の受賞、感慨もひとしおです。創刊以来「情報とは人と人をお互いに会わせ、コミュニケーションを生むツールの一つである」と信じてつくり続けています。景観も優しいコミュニケーションを生むための媒体だと思えます。「シティ情報ふくおか」を通して福岡のまちを好きな人が一人でも増えて、まち全体が優しいコミュニケーションの場となることが私たちの夢でもあります。

(株)プランニング秀巧社 常務取締役出版局長 佐々木富美代さん)

主催者 株式会社プランニング秀巧社

概要 1976年創刊、隔週刊、85冊、標準264ページの情報誌で115,000部発行。主に10代後半から30代の読者層に対し、まちの話題、イベント等の最新情報を提供し、福岡のまちを愛したための「ライブ」的な役割を果たしている。